

支部長からのお礼のご挨拶

第73回日本生化学会中部支部例会・シンポジウムが平成21年5月23日(土)に名古屋市立大学川澄キャンパス医学部研究棟11階講義室にて開催されました。参加者はおよそ200名を数え、盛況のうちに無事終了いたしました。

シンポジウム「ポストゲノム時代の修飾タンパク質研究」では、平野久先生(横浜市立大学)に「タンパク質複合体の翻訳後修飾のプロテオーム解析」、吉田稔先生(理化学研究所)に「多様な生命現象を制御するタンパク質アセチル化とそのネットワーク」、神奈木玲児先生(愛知県がんセンター)に「糖鎖修飾と細胞認識」、東山繁樹先生(愛媛大学)に「膜型増殖因子のEctodomein shedding-分子機構から生理機能まで」、水島昇先生(東京医科歯科大学)に「オートファジーの役割と制御機構」という演題で、修飾タンパク質という観点からご自身の研究の最新データの紹介を含めて魅力的なご講演をいただきました。会場からは活発に質問があり、それぞれの先生の講演が30分では短いと感じさせられるシンポジウムでした。

ポスター発表(演題総数49)は、一分間口頭発表による紹介と2時間にわたるポスター討論という形式で行われました。ポスター会場が少し狭く混雑しましたが、それがかえって活発な質疑応答につながったようです。発表者ならびに生化学会員による投票により、西尾美穂さん(名古屋市立大学)、岸本圭史さん(名古屋市立大学)、斉藤貴子(名古屋大学)の3名が奨励賞受賞者に選ばれました。

総会におきましては、支部の平成20年度の活動報告、会計報告ならびに次期支部幹事投票結果をご承認いただきました。続いて、上記3名の奨励賞授賞式を行い、すぐれた研究発表を讃えるとともに、研究の一層の推進をお願い致しました。また、来年度支部長として貝淵弘三先生をご承認いただくとともに、ご本人が海外出張にて欠席のため、代理として天野睦紀先生からご挨拶いただき、全スケジュールを終了致しました。

日本生化学会中部支部例会・シンポジウムにご参加くださいました皆様に厚くお礼申し上げますと共に、協賛・広告等でご協力くださいました企業の皆様にも厚くお礼申し

上げます。今後の皆さまのご研究の益々のご発展をお祈り致しまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

日本生化学会中部支部長
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科 森山昭彦